

[謡曲の祝言、追加]

謡を謡って、その人の後生を願い、霊を安んずるということは、昔からあったことです。庄重なる謡の音調は、強い何ものかを語らしむるものです。又、追善能、葬はよく行われますが、海士（キリ）、融（キリ）等、安楽世界に仏果を得たものを選びます。又、小謡は文句さえ法要に合っていれば、曲全体は目出度くとも差し支えないとされています。田村（げにや安楽世界より）、杜若（キリ）、などもよく用いられております。隅田川（残りても）、江口（心とむるゆえ）、卒塔婆小町（花を仏に）も、最近お通夜、告別式、初七日法要で経験しました。

（註）追善の催しでは、「追加」といいます。

これも、最後の曲が「鶉飼」で、「仏果菩提に至るべし」云々とあれば、追加を謡う必要はありません。

● 附祝言（呼び方・・・ア シ タ ハ ア オ イ 狸々）

ア・・・淡路 シ・・・代主（シロヌシ） タ・・・高砂 ハ・・・白樂天
ア・・・嵐山 オ・・・老松 イ・・・岩船 狸々

<p>淡路</p> <p>國富み民も豊かには萬歳を謳ふ 松の聲千秋の秋津洲治まる 國ぞ久しき治まる國ぞ久しき</p>	<p>高砂</p> <p>千秋樂ハ民を撫で萬歳樂にハ 命と延ぶ相生乃松風滅せぬ 聲と樂しむ諷をの聲と樂しむ</p>	<p>嵐山</p> <p>なから此處も金の峯の光も 輝く千本の櫻光も輝く千本の 梅も久しき春こそめでたけれ</p>	<p>岩船</p> <p>金銀珠玉ハ降り満ちて山の 如く津守乃浦に君を守りの 神ハ千代まで榮うる所代々ぞ なりにける</p>
<p>代主</p> <p>萬歳の四方乃國道ある所代 ぞめでたき道ある所代ぞ めでたき</p>	<p>白樂天</p> <p>げにありがたや神と君げにあり がたや神と君が代の動かぬ國ぞ 久しき動かぬ國ぞ久しき</p>	<p>老松</p> <p>我が神託の告を知らず松風も 梅も久しき春こそめでたけれ</p>	<p>狸々</p> <p>盡きせぬ宿こそめでたけれ</p>

（註）その日の最後の曲が「狸々」であれば、附祝言は必要ありません